

第 31 回日本災害医学会総会・学術集会に参加しました (2026/3/19-21)

テーマ：災害を科学する From Experience to Evidence in Disaster Science

場 所：新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ（新潟県新潟市）

2026 年 3 月 19 日（木）-21 日（土）の 3 日間、新潟県新潟市の新潟コンベンションセンター朱鷺メッセで、第 31 回日本災害医学会総会・学術集会が開催されました。新潟大学大学院災害医学・医療人育成分野高橋昌特任教授が大会長を、熊本大学病院災害医療教育研究センター笠岡俊志教授が副会長を務めました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が学術集会プログラム委員、教育講演・特別企画・パネルディスカッション座長、パネル招待演者、また学会委員として社会医学系専門医・指導医講習会運営を務めました。3000 名超の災害医療従事者、救急・消防関係者、保健行政関係者等が学術集会に参加しました。

今学術集会は過去に中越地震・中越沖地震を経験した新潟大学と、2016 年熊本地震から 10 年を迎える熊本大学が共同で運営を行いました。テーマは「災害を科学する」。新型コロナ時にもデータを駆使し、日本国内のみならず人口 100 万人以上の都市圏において世界最低の死亡率となった新潟県の入院患者調整システムを構築した高橋大会長がテーマを設定しました。1000 超の演題が採択され、災害の科学について熱い討論を交わしました。

佐々木准教授は、教育講演「新潟大災害・復興研×東北大災害研合同セッション 災害医療のために災害を理解する 災害科学概論」を企画し座長を務めました。災害は単なる背景ではなく医療ニーズそのものを規定する原因であり、これを正しく理解することが災害医療の「質」を決めます。「災害科学」を標榜する当研究所から、福島洋准教授（陸域地震学・火山学研究分野）、サッパシー アナワット准教授（津波工学研究分野）、森口周二教授（計算安全工学研究分野）が web 登壇し、地震・津波・気象地盤災害について災害保健医療福祉従事者に必要な知見を分かりやすく解説しました。定員 200 名の会場に立ち見が出るほどの盛況となりました。佐々木准教授はその他に、「病院 BCP と地域連携」パネル企画・座長、災害医学教育に関する特別企画の 2 座長、10 周年を迎えた健康課題に関する避難所運営研修 BHELP コースパネルディスカッションの招待演者も務めました。

今回の学術集会は酒どころ新潟での開催で、もの作りがお好きな高橋大会長肝煎りの「おちょこストラップ」も販売されました。学会参加証におちょこをセットでき、それを使って会期中に振る舞われる数多くの新潟銘酒を（加えて熊本焼酎も）楽しめるというユニークな企画もありました。参加者は銘酒名産品を楽しみながら、災害の科学について大いに議論を深めました（ちなみに、座長記念品もおちょこストラップでした。佐々木准教授は計 5 つを首から提げていましたが、担当時間が会期全般にわたり残念ながらストラップを一度も活用できませんでした）。

次年度の第 32 回日本災害医学会総会・学術集会は、2027 年 3 月 18 日（木）-20 日（土）に北海道札幌市の札幌コンベンションセンターで開催されます。防災科学技術研究所や大学理工学系教室、避難生活に関する学術団体、海外研究者、NPO、ボランティア団体からの発表や、医療用大型テント、DMAT・TEC-FORCE・トイレ/キッチン車両展示、自動心肺蘇生デバイス、災害医療 DX システムなど、見ていて楽しい展示企画も数多くあります。災害研のみなさん、保健医療福祉関係以外のみなさん、次回は札幌でテーマ「災害医療の本質の追究 守るべきものは命か」について語り合ってみませんか？

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）
（次頁へつづく）



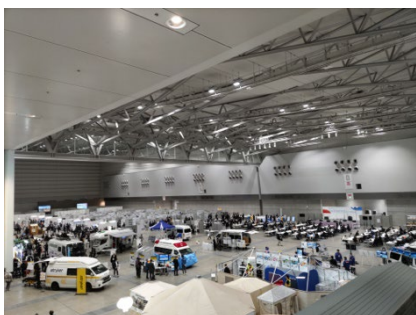
挨拶する大会長の
高橋昌新潟大大学院特任教授



災害医学教育特別企画で座長を
務める佐々木准教授



佐々木准教授が運営に携わる
社会医学系専門医・指導医講習会



ホールでのポスター展示と
企業展示、銘酒振る舞い



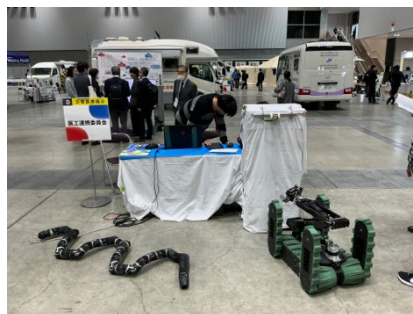
にいがた・くまもと
震災アーカイブ



宮城県薬剤師会のモバイル
ファーマシー。車内で調剤できる



新潟県歯科医師会の巡回歯科
診療車。能登でも活躍



医工連携委員会による
調査ロボット展示



トレーラーハウス。
家族単位、要配慮者の避難に好評



浸水被害から緊急車両を守る
車両用浸水防止カバー



段ボールユニット。
トイレにも授乳室にも使用可



高橋会長肝煎りの
おちょこストラップ